

年 組 名前:

問1

甲府市は「ヤマトダマ」を、  
なにの燃料にしようとして  
していますか。

.....  
.....

問2

次の文章の①から⑧に  
当てはまる言葉や数字を、  
答えてください。

『ヤマトダマは半年で  
高さ①mまで育つ  
②の速さが特徴で、  
種まきから③までの

期間が短く、④がいい。1粒の種子から300~⑤粒の種子を取ることができ、大量生産も可能。

栽培実績では、⑥が付きにくく、⑦にも強い。また、山間部の⑧の有効活用が期待できる』

- ① ..... ② ..... ③ ..... ④ .....
- ⑤ ..... ⑥ ..... ⑦ ..... ⑧ .....

問3 「カーボンニュートラル」とは、どのような取り組みか調べ、答えてください。

.....  
.....

# バイオ燃料へ作物栽培



## 市が実証事業 エネルギー地産地消探る



成長した「ヤマトダマ」  
(ヴィジヨナリーパワー提供)

(2024年3月7日付 山梨日日新聞16面)

甲府市は新年度、脱炭素社会の推進に向け、バイオマスエネルギーの燃料となる作物「ヤマトダマ」を栽培する実証事業を始める。種まきから収穫までを行い、生餌混合や作物の特性などを検証する。栽培は、市民にも関わってもらいながら進める計画。再生可能エネルギーの可能性を探るとともに、地球温暖化対策の普及啓発につなげる。

〈杉原みずき〉

事業は、市のSDGs推進パートナーのヴィジヨナリーパワー（同市）と連携し、ヤマトダマを開発したオウルテス（東宮）の協力も得て実施する。オウルテスなどによると、ヤマトダマは半年で高さ60センチまで育つ生育の速さが特徴で、種まきから燃料化までの期間が短く、生産効率がいい。1粒の種子から300〜500粒の種子を取ることができ、大量生産も可能。同社の栽培実績では、虫が付きにくく、獣害にも強いとされ、山間部の耕作放棄地の有効活用が期待できるといふ。昨秋は、根をバイオマス燃料として活用する。実証事業では、4月に市農業センターにポットを設置して種をまく予定。

発芽後に広いスペースに定植する。定植場所は、農業従事者の協力を得ながら選定する。秋ごろに収穫し、種も採取する計画。種まきの段階から、農業従事者ら市民にも作業に参加してもらうことを検討している。

市内の土壌での生育状況や作物の特性、獣害の有無などを確認する。事業費100万円を新年度の一般会計当初予算案に計上している。

市環境政策課の担当者は「地域の新たな資源として広がり、再生可能エネルギーの地産地消やカーボンニュートラルの実現につなげられるといい」と話している。

市環境政策課の担当者は「地域の新たな資源として広がり、再生可能エネルギーの地産地消やカーボンニュートラルの実現につなげられるといい」と話している。